

新本庁舎建設 ニュースNo. 7



地下駐車場部分 免震装置を柱に設置

新本庁舎は、災害発生時の防災拠点として大震災にも対応できるよう、免震構造を採用しています。設計にあたっては、国土交通大臣の認定を受けています。

使われている免震装置は下記に示したゴム製の2種類で、直径75、80、85センチメートルの3つの大きさがあります。製品検査を終え製造工場から建設現場に運ばれた免震装置は、10月28日から設置を始め、64基すべての設置が終わりました。今後は免震装置の上部に1階床部分の建設工事が始まります。



地下駐車場の柱の上に取り付けられた免震装置（白枠部分）（10月29日撮影）

免震装置（カットモデル）



「天然ゴム系積層ゴム免震装置」（写真右）

薄いゴム板と鋼板を交互に重ねて接着したもので、地震時には水平方向に変形することで、建物への揺れの伝達を軽減します。

「錫（スズ）プラグ入り積層ゴム免震装置」（写真左）

積層ゴムの中心に、ダンパーとして円筒状の錫を封入した免震装置で、地震時には錫の塑性変形によって地震のエネルギーを吸収し、水平方向に移動した建物を元の位置に戻す機能を持っています。

●本庁舎内庁舎建設推進課

☎71・2000（代） ☎71・5000

■安全性と利便性の向上を目指して 穂高会館の改修工事が始まる

穂高会館耐震補強等改修工事の起工式が10月15日、穂高会館講堂で行われました。式典には、市や工事の関係者約70人が出席し工事の安全を祈りました。

公民館と体育館の複合施設である穂高会館は、昭和55年の完成後、穂高地域の生涯学習の拠点として利用されてきました。しかし、新耐震基準適用以前

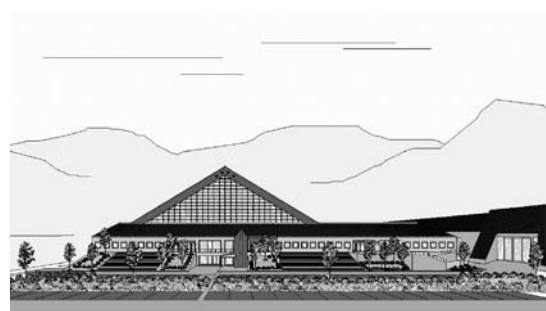
の建物であり、近年、設備などの老朽化も進み、施設の安全面や利便性の面から改修が必要となっていました。

改修工事では、大規模災害に備え施設の天井などの耐震補強を行うほか、体育館の照明や床、トイレなどの設備の改修、館内のバリアフリー化やエレベーターの設置、駐車場の増設なども



起工式

合わせて行います。総事業費は約14億230万円で、主な財源に合併特例債を活用します。完成は、平成27年3月の予定です。



穂高会館改修後予想図

市議会 正・副議長 委員会構成



議長
宮下明博



副議長
平林徳子

【総務委員会】

◎濱昭次、○藤原陽子、坂内不二男、荻原勝昭、松澤好哲、平林徳子

【環境経済委員会】

◎内川集雄、○宮澤豊次、井出勝正、増田望三郎、竹内秀太郎、小松洋一郎

【福祉教育委員会】

◎小松芳樹、○黒岩豊彦、林孝彦、藤原正三、猪狩久美子、小林純子

【建設水道委員会】

◎召田義人、○松枝功、一志信一郎、中村今朝子、山田幸与、平林明

【議会運営委員会】

◎小松洋一郎、○松澤好哲、一志信一郎、黒岩豊彦、荻原勝昭、内川集雄、小松芳樹、濱昭次

【議会広報特別委員会】

◎坂内不二男、○増田望三郎、林孝彦、井出勝正、一志信一郎、藤原正三、中村今朝子、山田幸与、内川集雄、小松芳樹

◎委員長○副委員長

■新体制がスタート

市長・市議会議員選挙後の新しい体制が決まり、本格的にスタートしました。

10月30日の市議会臨時会では、村上広志副市長の再任など特別職をはじめとした人事案件が議決され、市議会でも正・副議長、委員会構成などが決まりました。

また、11月11日の市教育委員会臨時会では、教育委員長に望月正勝さん、教育長に須澤真広さんが決まりました。（写真・敬称略）



副市長
村上広志

教育委員会



教育委員（新任）
唐木博夫



教育長
須澤真広



教育委員長
望月正勝

固定資産評価 審査委員会



委員（新任）
竹内喜英

監査委員 （議会選出）



監査委員
竹内秀太郎